

令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	よこね田んぼ景観保全 柵田改善維持事業
事業主体 (連絡先)	千代地区まちづくり委員会 0265-59-2003
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,667,950 円

事業内容

- 柵田排水路の整備  
地域の宝として地域住民で守る姿勢を地区内外に広める  
施工図面を作成、正確に記録し今後の保全活動に活用
- 地域住民との共同作業  
残土を利用して畦道、土手、農機乗入れ道の整備の実施  
他地区イベントでの活動アピール、グッズ、製品の販売
- 整備した柵田を利用したイベント開催  
里山ベースで焚火イベント「篝(かがり)火の夜」を企画  
スウェディッシュ・トーチ(木こりのローソク)の実演



【排水路改良工事後の柵田焚火イベント】

【目標・ねらい】

事業効果

- 柵田の状態(水、成育等)の安定を見込み、R2年度のオーナー募集に際し口数を定めず、シーズン内は随時加入を受け付ける方式にした。
- 沼田にならないことを見込み、軽微な服装での作業参加、イベント、体験への飛び入り参加を広く呼び掛け多くの参加者を募る。  
飯田市立病院医師グループの体験参加の依頼を受けている。  
俳優 峰 竜太 氏を名誉オーナーに迎え、集客増を図る。
- ③④晩秋から冬期間の使われていなかった柵田の活用が可能になり、観光や体験イベントが開催でき、冬もよこね田んぼに人を呼ぶことができる。柵田キャンプ、柵田バーベキュー、星空観測などを今後開催し集客につなげ、里山ベースの安定運営にもつなげる。  
柵田たき火イベント「篝(かがり)火の夜」では250人を集客、また柵田内での「お一人様キャンプ」を実証した。

- 水管理を容易にし、コンディションの安定した田んぼにすることで作業負担を軽減する。
- オーナー用の田んぼを増やし、観光や体験に訪れる人を増やす。
- 水はけの良くなった柵田を活用した冬季間のイベント等を可能にする。
- 里山ベースの活動拠点の一つにする

※自己評価【A】

【理由】

・柵田たき火イベント「かがり火の夜」では60人程の参加を見込んでいたが250人の集客となった。今後もやってほしい。次回は是非行きたい。等の声が聞かれ、今後の冬季間の柵田活用につながる結果を得ることができた。

今後の取り組み

- 給排水路の設置工事を行い、給排水機能が改善し特に水持ちがすることにより水の管理が容易になる。また除草剤の減量にもつながり、更に水温が安定することで収量の増加も見込める。そして排水機能の改善で長年苦慮してきた沼田作業が改善でき作業負担が軽減される。加えて、あぜ道や農機乗入れ道も整備したことで昔ながらの手作業を大切にしながら必要に応じて農機を安全に使い作業効率を上げることができるようになる。
- 保全委員や地権者の高齢化から柵田の保全作業が負担になりつつあるなか、今後地域の40代、50代の中堅世代に保全活動を引継ぎ景観保全を維持していく為の重要な環境づくりが本事業でできた。
- シーズン問わずにまた、四季折々の柵田を活かした観光や体験、イベントを里山ベースで企画し、交流人口や集客の増加につなげる。
- 安定した米の収穫や酒造り、グッズ、製品作りにつなげ、里山ベースの安定運営を目指す。